

南国市同和教育研究大会は十月十三日、市民体育館を中心に市内の各会場で開かれ、市民の関心は高まりました。

まず、高知新聞社の半田久米夫氏の講演があり、「マスコミから見た解放運動」について話されました。この後、深く教育内容を創造するための分科会にわかれ、熱心に討議されました。

同和教育の前進を

市同和教育研究大会

講演「マスコミから見た解放運動」(講師・高知新聞社 半田久米夫氏)

解放への関心を取材して感じたことは、作られた差別の実態が根強く残っていることである。農村であって田畑がない、濃村であったり、生活基盤はまたまたの感がある。解放学習運動は地域により格差がある。そこに教育の必要性がある。部落外の教育にしても、PTAなどを通してもっと充実さすべきではないだろうか。部落内教育についても同様に不十分な点がありはしないか。部落差別の本質を再認識したうえで、真剣に考えるべき問題である。態度の問題として、言葉が間違ったら大変だからかわらないと考えている者もいるが、これは言葉と態度の問題が逆転している風潮の中で大変残念なことである。部落問題を取材した後、仕事面において、原点を見つめる目を持ったことは大きな財産である。

差別問題」とは何かという基礎的な学習を深め、部落を持った保育所の取り組みに学びながら、同和保育の内容の創造を深めなくてはならないのではないだろうか。健康教育「子供たちの健康をどのように保障しているか」健康診断の実施や事後指導、欠席や遅刻の状況、伝染病予防、健康生活の習慣などの問題点について、各校の取り組み方を報告。障害児教育「障害児の教育を受ける権利をどのように保障しているか」

知能指数が低い原因には、環境が劣っているのか、言語活動が家庭で充分でないのか、言語活動が家庭でも劣っているのかというアメリカの例が話された。また障害児を持つある母親の話として、部落で差別されねばならぬのか、どうすればわが子にとって一番幸せだろうかという話も出された。進路保障「部落の子供たちの学力、進路、就職保障をどのように進めているか」

落ちこぼれの子供たちをどうのような手だてをしてなくしているか、各校から実践報告がなされた。

教育内容「小学校低学年、中学年、高学年、中学校における同和教育の具体的な取り組みはどうあるべきか」

▽小学校低学年 大湊小学校より、年間計画、集団作り、夏休み子供会の合宿、地域懇談会、地域学習などについて問題提起があった。香長ブロックでは副読本で同教材を使って授業研究しているが、南国市の低学年ブロックで取り組んでどうか、などの意見が出た。

▽小学校中学年 絵地図作りの中で、はつきりとした差別問題が出た。家庭から聞きた見方や考え方を聞いてくる児童があったが、それをどう指導するかについて熱心に討議がなされた。

▽小学校高学年 基本的な教えが示された。①いつ、誰が、どういう目的で作ったのか。②江戸時代の習慣がなぜ今日まで、温存、助長、再生産、拡大されてきたのか。③実態としてどうなのか。④自分たちは部落問題とどうかかわっているか。⑤行政はどういう手だてをしているか。どのような解放運動、教育がなされているか。⑥これから自分たちは何をなすべきか。

社会教育「部落問題の解決をめざす社会教育活動をすすめるための条件はどのように整備されているか」

社会意識として存在する部落差別をどういうふうに取り除くか。地区をもっている学校では合宿や学習会などを積極的にやっているが、地区を持たない学校ではあまり手がとどいていないのが残念である。

行政「部落解放のために行政はどのような取り組みをしているか」同和対策課より、生活環境の改善整備、生活基盤の整備振興、教育の充実などの報告がなされた。

子供会活動「解放の担い手をどのように育てているか」

活動は、自分たちの身のまわりにある部落差別と戦う子供会であること。父母、青年、部落の人々の生きざまを勉強すること。

以上、活発な意見交換がなされ、全体会では、行政部会より①同和対策特別措置法強化延長に関する件②狭山差別裁判の再審請求に関する件、一般より①口腔衛生に関する件、②歯を洗う施設を各校に作ってほしい、という特別提案がありました。これは、総会が開けない、役員会で決議はできない、という理由により当然あずかりとなりました。

世界の音楽をお琴で

一千五百人來場の文化祭

「市民である限り誰でも自由に参加できる」文化祭は、今年で四回目を迎えました。市民体育館を会場に、展示・舞台部門で、十月二十九日から十一月四日まで行われ、延べ一千五百人の市民が会場を訪れました。

今年の催しは、毎年好評のお茶席のほかに、大量出品となり市民

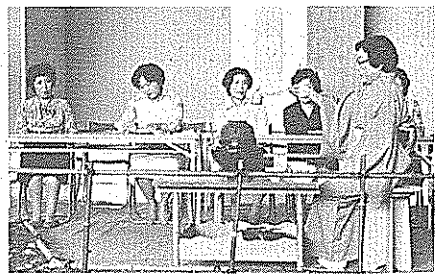
の目を楽しませた絵画や世界の音楽を日本の楽器で追ったお琴、若人たちの社交ダンスが話題を呼びました。ある文化祭参加者が、「文化はそれを自ら行うことはもちろんだが、行わなくても他人の作品や発表を観るだけでも身につけることができる」と、熱心に話しているのが印象的でした。



祝第4回南国市文化祭



文化祭



第19回南国市乳牛共進会

「日頃の飼養、管理を競い合っており、よりよい牛づくり、酪農経営を目指している」と、第十九回南国市乳牛共進会が、十一月一日、物部で開かれました。

主催は南国市と市酪農振興協議会(松下仁会長)で、市内の酪農家から日頃手塩にかけて育てている三十一頭が参加。経産牛、未経産牛、育成牛の三部門に分かれ、県中央家畜保健所の安岡愛宏所長らによって、姿形や乳房の形状などについて審査が行われました。

また、この日は近くの日章小学校の一年生七十人あまりがおとすれ、写真会が開かれたり、なごやかな共進会となりました。

審査結果は次のとおりです。

「一日署長」で防犯をPR

「お出かけはひと声かけて、カギかけて」——十月二十七日から十一月一日までの一週間、全国防犯運動が展開されました。

南国警察署では、運動の初日の二十七日、小笠原市長を「一日署長」に迎え、思い思いのお面をつけた市連合婦人会など関係団体の代表ら約六十人と一っしょに後免町の商店街を歩いてパレード。防犯チラシや風船を配るなど、「防犯」のPRを行いました。

